

東洋美術印刷株式会社

埼玉工場Labo通信

創刊のごあいさつ

突然ですが、コロナ禍の中、皆さんどうお過ごしでしょうか？従来より印刷工場では機材や資材等の進化に併せ、様々なテストを行い現在に至っております。改めて昨年(2019年)の夏頃より、埼玉工場内で行った研究を「ラボ活動」として発信をしようと考え、不定期ですが通信の発行準備を始めます。掲載内容は「環境」「生産」「品質」に関わる新しい資材や機材の最新動向や技術研究の成果をお伝えできればと考えています。

vol.000

創刊前号

令和2年
9月1日号



デジタル印刷機特集

近年、出版物や商業印刷物の小ロット化が進み、印刷工場では「ものづくり」の現場として作り方、働き方を含め「変革」の時期に入っております。

弊社では1999年よりデジタル印刷機の活用を進め、すでに第三世代へと突入しております。第一世代機AGFAクロマプレスから始まり、現在までに至るPODトナー機・富士ゼロックス群(本社)とCanon iPC10000VP、そして2016年12月に導入した小型インクジェット輪転機、Canon CS3700ZとSmart Binding Systemなどの一連の製本システムを導入し「スマート



Canon iPC10000VP

ファクトリー化」への取り組みが始まっています。Canon CS3700Z導入当初、すでに1200dpi機が発表されていましたが、非常に高価(過ぎ)でした。本機は600dpi機ではありますが、



Canon CS6700Chroma

疑似1200dpi化(600dpi×600dpi・4諧調)された諧調表現は非常に優れており、インシャルもさることながら生産コストと出力品質のバランスを高く評価し、私どもがターゲットにする「商業印刷物・ミドルレンジ」の冊子および書籍に関して十分にビジネスになると判断しました。現在、インキの改良と同時に機材改良も行われ、CanonCS6700Chromaとして、色彩度が上がり写真に関しても品質向上が進んでおります。



Canon CS6700Chroma



HorizonSmartBindingSystem

色々なお客様に、カラーで判りやすいお客様説明用資料(約款・自動車マニュアル・セールスマニュアル・事業報告)や出版物など様々な用途でお使いいただいております。DXによる受発注から生産まで、コロナ禍後の世界でも対応できるシステムではないでしょうか。詳しくは弊社営業までお問い合わせください。

編集後記

今号はどのような発信ができるか試作しながらのテスト号(創刊前号)ですが、今後のコロナ禍後の世界を考えつつ、埼玉工場で行っている「ラボ活動」について判りやすくお伝えできるようカイゼンを重ねて行きたいと思っております。